

愛知県 精神医療センター ニュース

外来

認定看護師+CERTIFIED NURSE

自己洞察から生まれる新しい視点

【シリーズ】教える先生『てんかん外来』

INFORMATION

シリーズ

教える先生!?



7

てんかん外来

2019年から愛知県精神医療センターのてんかん外来を担当しています。

てんかんは、脳の神経細胞が過剰に興奮して起こる発作（てんかん発作）が反復する慢性の脳疾患です。発作の症状はけいれん発作や意識が混濁して手や口が動くもの等多多彩ですが、一人ひとりの中ではおおむね同じパターンの症状を示します。

およそ100人に1人がかかるとされ、乳幼児期・小児期の発症が多いため小児の疾患と考えられてきましたが、社会の高齢化に伴い55歳以降に発症する人も増えていて、今や高齢者の疾患でもあります。

診断や治療法が進んだ結果、てんかんの80%近くは発作コントロールが可能と言われています。ただ、てんかんは発作以外にも抑うつ・不安や幻覚・妄想などの精神症状を生じやすく、また就学・就労や結婚・妊娠・出産、自動車運転等で配慮が必要となることなど、社会生活を送る上で困難を抱えることがしばしばあります。そのような場合には、精神



今号の
先生

中岡 健太郎

【好きな食べ物】（チューブでない）本物のわさび

【マイブーム】 サイクリング

科での薬物療法、心理カウンセリングや多職種によるチームアプローチが有効となります。

当院のてんかん外来での相談内容には小児科、脳神経内科や脳神経外科では扱いにくい、上記のような精神医学的問題が多く含まれます。

まだ未解明なことも多く、社会の理解や支援体制が追いついていない面もあり、手探りで対応となることもしばしばありますが、来院された方々のニーズを的確に把握し、精神科ならではのてんかん医療を提供していけたらと考えています。

INFORMATION

みんなの池

当センターは地域に開かれた精神科病院を目指すため、病院芝生広場を近隣住民の方やその他どなたでもご利用できるように開放しています。その一角に「みんなの池」という池があることを皆様はご存じでしょうか。池には、大きく成長した金魚やたくさんのメダカが元気に泳いでいます。実は職員の中に金魚とメダカの父母がいて、その父母が餌をあげたり池の掃除をしたりして大切に育てています。皆様もぜひ「癒しの場所」として「みんなの池」を見に来て下さい。

※金魚やメダカの世話は当センター看護部の父母がしっかり世話をしています。

金魚やメダカは餌を食べすぎると死んでしまいますので、餌は与えないで下さいね。



愛知県精神医療センター
Aichi Psychiatric Medical Center

〒464-0031 名古屋市中種区徳川山町 4-1-7
TEL 052-763-1511
<https://www.pref.aichi.jp/seishiniryō-center/>



皆さんはじめまして。今回は、私が精神科認定看護師教育課程で学んだ『リフレーミング』を皆さんにお話させていただきます。

既にご存知の方がみえるかもしれませんが簡単に説明しますと、元々は家族療法の用語で、物事への視点を普段と少し変えてみることで。今までの枠組みを取っ払い、新しい見方をする。それにより、同じ物事

であっても思うことや感情が異なってくる。そんなこと分かっているよ。それができたら苦労しない。」というお声が聞こえてきそうですが、たしかにこれまでの考え方を考えることはなかなか難しいものです。無理やり肯定的な思考にはない、悲しいことは悲しい。そのような悲しさと怒りなどの否定的な感情は抱きた

くない、と思いがちですが、危険回避や相手を思いやる面では、なくてはならない必要不可欠な感情なのです。むしろ、そのような感情を抱かないと危険を察知できずに無謀や無防備な行動をとりやすくなってしまいうそです。そう考えると、悲しさや怒りの感情が芽生えることに對して、少し受容的になりませんか。

『リフレーミング』を実践してみましたがいかがでしょう？前記したように、視点や考え方を考えることは今まで築き上げてきた価値観で、容易には変えられません。なので、少しずつ。まずは、自分がどのような視点で物事を見ているのか自己洞察が求められます。自己傾向がわかったら、その視点を少しずつ変えてみてくださいます。その積み重ね



小野田 彩乃

により、苦しめられていたことに對して気持ちが少しでも楽になってきたら、次は行動に変化がもたらされるかもしれません。私も、辛い時にはリフレーミングを活用しようと心掛けており、習得途中で。いろいろな視点で物事を考えられるような人間になりたいですね。

今、目に見えない恐怖と隣り合わせに生活しながら、閉塞感も抱きやすい世の中になっしまいました。今回お伝えした『リフレーミング』を通して皆さんの心が少しでも健やかでいられますように。その一助になれば幸いです。

認定看護師 + CERTIFIED NURSE

自己洞察から生まれる新しい視点

専門外来

Specialized outpatient

成人発達外来



中岡医師

権田心理士

何らかの特性を抱きながらも診断を受けることなく成長し、成人近くなって役割や環境が変化したことで生活の中で困難が生じ、その問題の背景に発達の特徴があるのではないかと疑って受診される方の外来です。初診から多職種で関わっており、専門外来受診後はデイケアでの専門プログラムに多くの方が参加されます。

てんかん外来

てんかんはてんかん発作を繰り返す脳の疾患です。失神や脳血管疾患、心因性発作など、てんかんと紛らわしい症状を示す病態もあり、病歴や症状を詳しく聞いた上で、脳波や頭部CT等の検査所見も踏まえて総合的に診断します。てんかんのタイプだけでなく、性別や年齢、体質なども考慮しながら、その方に最適の治療法を選択するよう心がけています。

物忘れ外来

物忘れ外来は、1998年に開始し、20年以上になります。認知症専門医は常時複数おり、医師の交代があっても対応できています。2003年に学会で「痴呆」という疾患名が差別的であると問題提起しました。そのことがきっかけとなり、「認知症」に改称され、今では「認知症」が一般的になってきました。現在は名古屋市の市政に取り入れられた「千種区認知症地域連携の会」事業の一端を担っています。

認知症は、早期発見・早期診断が重要です。早期から適切な対策をとることや治療を受けることは、改善や症状を緩和することに繋がります。

児童外来

当センターでは、平成15年から児童外来を開設しました。ニーズの高まりに合わせ、平成29年から外来診察エリアを独立させ、複数名の専任医師で対応しています。診察室だけでなく診察待合室も一般外来と分けているため、小さなお子様も安心してお過ごしいただけます。児童は、外来だけでなく児童デイケア、児童病棟があり、連携を取り合い専門的な医療を提供しています。

※満1歳から中学生までの方を対象とし、確かな診断や効果的な治療を行う上で、必ずご本人に受診していただいています。

＜対象とする疾患＞

- ・統合失調症などの精神病性障害
- ・うつ病、躁うつ病などの気分障害
- ・自閉スペクトラム症、注意欠如多動症などの発達障害
- ・適応障害や不安障害
- ・不登校や引きこもり、虐待などの心理的問題

重症な摂食障害に関しては、状態変動が大きく、身体管理が難しいため、常勤の小児科医や内科医がいる総合病院での治療をお勧めしています。



堀医師

鈴木医師

外来

Outpatient

●当センターは予約制です

○外来診療とは

対象となる症状は、気分の落ち込み、意欲の低下から幻覚・妄想、パニック、睡眠障害など多岐にわたります。診療にあたる医師も、新進気鋭の若手医師から、経験豊富な熟練医師まで幅広く、それぞれが責任をもって診療にあたっています。当センターには、一般外来と専門外来があり、一般外来では、うつなどの気分障害や統合失調症などの精神病性障害や不安障害などの治療を行います。専門外来には、成人発達外来、児童外来、物忘れ外来、てんかん外来があり、それぞれの医師が研鑽を積み、連携をとりながら診療にあたらせていただいています。お困り事がございましたら、ぜひご相談ください。



山崎医師

新任医師紹介

西山医師

初めまして。この度、2020年4月から精神医療センターで勤務することになりました。西山扶と申します。私は広島県呉市で生まれ、愛知県名古屋市で育ちました。小学校2年生からサッカーを始め、小中高校はサッカー漬けの日々を送っていました。サッカーと医学の知識しかありませんが、これまでの学んだ事を活かして診療に励んでいきます。よろしくお願ひ致します。



松川医師

精神科医師の松川剛です。三重県出身で、以前は名古屋大学医学部付属病院の精神科で働いていました。精神科医療も病院だけで完結するものではなく、地域完結に変化してきています。私は、地域完結医療には地域や福祉と力を合わせる事が大切であることを、日々実感しています。精神医療センターに赴任したばかりのため、まずは、病院内から他職種間で連携して皆様の支援をお手伝いできるように頑張っています。



山口医師

今年4月より愛知県精神医療センターに所属となりました精神科医の山口世亮と申します。当院の前には名古屋大学医学部附属病院にて勤務し、研鑽を積んでおりました。愛知県の精神科業務の中核を担う当院においても、精神疾患で悩んでいる方々のお力になればと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。



佐藤医師

昨年4月に赴任し、この4月に復職しました佐藤と申します。旅行が趣味で車であちこち出かけておりましたが、コロナウイルスでなかなか外出もままならなくなり、長らく旅行にも行けておりません。気兼ねなく出かけられるようになる日が待ち遠しいです。患者さんにとって親しみやすい診療を心がけて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

